

氏名	田中 景子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5575号
学位授与の日付	平成29年6月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Arterial Stiffness Is an Independent Risk Factor for Anemia After Percutaneous Native Kidney Biopsy (動脈スティフネスは経皮的腎生検後の貧血進行を予測する独立したリスク因子である)
論文審査委員	教授 伊藤 浩 教授 塚原宏一 准教授 渡邊豊彦

学位論文内容の要旨

腎生検後の出血合併症は多く、そのリスク因子は多数報告されている。しかし動脈硬化症との関係を調べた研究はない。当科腎生検 462例を対象に、生検後の貧血進行 (10%以上のヘモグロビン低下) を予測するリスク因子を後ろ向きに検討した。動脈スティフネスの評価に上腕-足首間脈波伝播速度 (baPWV) を用いた。貧血進行のリスク因子は、女性、高齢、血清アルブミン (A/b) 低値、eGFR低値と生検直後の拡張期血圧低値であった。多変量解析では、女性、低A/b血症と生検直後の拡張期血圧低値が独立したリスク因子であった。baPWV測定187例で、baPWV高値は貧血進行の有意なリスク因子であり、多変量解析でも最も有意なリスク因子であった。貧血進行予測のROC曲線では、baPWV 1839 cm/secがカットオフ値であった (AUC 0.68)。以上より baPWV高値は既報の他のリスク因子より、有用な貧血予測因子である可能性がある。

論文審査結果の要旨

腎生検は腎疾患を診断し、治療方針を決定するための重要な検査である。腎出血は最も多い合併症であり、検査の安全性を高めるうえでもリスク因子を明らかにすることが求められていた。本研究は462名の腎生検施行患者において、腎出血に関連するリスク因子を明らかにすることを目的とした単施設の後ろ向き研究である。

腎生検翌日の貧血進行のリスク因子として、女性、低アルブミン血漿、拡張期血圧低値が挙げられた。動脈スティフネスの指標としてbaPWVを計測した症例に限定して検討すると、baPWVが独立した貧血進行のリスク因子であることが多変量解析により示された。従来のリスク因子に加えbaPWVという新たなリスク因子を明らかにしたという点で、重要な知見を得たものとして価値のある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学の学位を得る資格があると認める)。